

NGOトーク
理事が聞く

第51回

コミュニティで困っている 仲間を助け合いたい

ビンブラザーホッド トーカイ ジャパン 代表 エノグエヴァ プリンス・ユージン ノサさん & (特活)名古屋NGOセンター 理事 丹羽 輝明

誰かが困っていたら 助け合う

丹羽 ビニンはどのあたりにあるのですか。

ユージン ノサ ナイジェリアの南部にビニン(Benin)という都市があります。そのビニンを含むエド州から、愛知県近辺に来て住んでいるメンバーとその家族の団体です。

丹羽 エド州(Edo State)という州だけで、こんなに多くの方が東海地方に住んでいるのですね、驚きました。

ユージン ノサ 月1回こうして集まって、近況報告などを行っています。他にはバーベキューやクリスマスパーティーで家族ぐるみで親睦を深めています。

丹羽 ご家族というと、

ユージン ノサ みなさん日本に来て何十年というメンバーばかりです。だいたい日本人の女性と結婚して、子どもも成人したり大学生になったり、もうすぐ孫

ができる人もいます。

丹羽 どのような活動をしているのですか。

ユージン ノサ ナイジェリアは日本と比べたらまだまだ貧しい人がたくさんいます。日本で少しずつでもお金を集めて助けたいと思っています。まだ始めたばかりですが、クリスマスパーティーで寄付を集めて、たまに服などを送っています。

丹羽 コミュニティの中で困っている人を助け合うというのが、ビンブラザーホッドさんの一番大切にしているところなのですね。

ユージン ノサ 例えば、日本人なら亡くなったら火葬されてお墓に入りますが、私たちは死んだら燃やされずに飛行機でナイジェリアに帰りたいのです。でもそれにはお金がかかります。また、誰かが



病気になったりとか、大きいビジネスをするとか、困ったら話し合います。少し前にも、東京にいる私が知らないナイジェリアの方が治すのに2,500万円もかかる病気になったと連絡があり、いくらだそうかという話し合いをしました。また年金や保険に加入することを仲間呼びかけています。

ナイジェリア、ベニンについて



あまりなじみがないナイジェリアやベニンについて調べてみました。

2015年の人口は1億8200万人(世界第7位)。1990年は約9,000万人だったので25年間で2倍に増加しています。国連の推計によると2050年には約3.9億人になる見込みです。食料を確保するための農業技術の向上が不可欠ですね。

名目GDPは約4,000億USドル。日本の1/12しかありませんが、この15年間で6倍になるなどめざましい経済発展を遂げています。しかし、この富は一部の富裕層にとどまり、国民の半数以上が年間収入500ドル未満の貧困ライン以下の生活をしています。

約250の民族・言語があり、北部はイスラム教、南部はキリスト教を信仰しています。

エド州の人口は350万人。州都のビニン市は人口110万人(国内9番目)の地方都市です。



東海地方には、ブラジルや中国、韓国以外にも多くの外国人の方が暮らしています。昨年、名古屋NGOセンターに加盟したベニンブラザーホッドトーカイ ジャパンさんもそのひとつです。

右: エノグエヴァ プリンス・ユージン ノサさん

左: 丹羽 輝明

日本の人に 伝えたいこと

丹羽 日本にきて驚いたこと、ナイジェリアとココが違う!というところはありませんか。

ユージン ノサ 安全と平和ですね。世界のどこの国よりも安全だと思います。夜一人で出歩いても大丈夫です。日本人はこれが当たり前だと思っているだろうけれど、これは全然当たり前じゃありません。また、服とかまだ着れるのに簡単に捨ててしまうことにも驚きました。もったいないですね。

丹羽 逆に困ったことはありますか。

ユージン ノサ 近所づきあいが難しいですね。長く暮らしていても、なかなか挨拶してもらえないのが寂しいです。

丹羽 確かに日本人は、「外国人」というだけで苦手意識が出て、なかなか声がかけれなかったりしますね。日本人

に特に伝えたいことはありますか。

ユージン ノサ 黒人という悪いイメージがあるみたいです。確かに悪いことをする人もいるかもしれませんが、どんな国でもいい人もいますし悪い人もいます。でも私たちのようにきちんと仕事をして家族を大事にしている人もいます。

農業の支援をしたい

ユージン ノサ 日本は工業は進んでいます。農業の技術もとても進んでいます。その技術をナイジェリアに伝えたいと思っています。

丹羽 ナイジェリアの農業はどのような状況なのですか。

ユージン ノサ ヤマイモ、ジャガイモ、トウモロコシが多いですね。コメは生産量が少なくて台湾から輸入しています。

丹羽 コメは輸入するほど需要がある

のですね。

ユージン ノサ 日本は平地は市街地と農地でびっしり使われていますが、ナイジェリアは使われていない土地がたくさんあります。日本の技術で農地を作りたいですね。ベニン市に農業者を育てるためのコミュニティセンターを作ることを計画しています。そこに日本から農業機械を送りたいです。また私たちは農業経験者はいないので、ベニン市で日本の農業を指導してくれる方を募集しています。

丹羽 この「さんぐりあ」を見て、興味を示してくれる方がいるといいですね。

ユージン ノサ 他にもトマトの栽培にも興味があります。ナイジェリアでもトマトはたくさん生産して消費されているのですが、日本ではビニルハウスなどで非常に多く収穫しているのに驚きました。

丹羽 ありがとうございます。

(記録:丹羽)

月1回のミーティング



対談を終えて・・・

メンバーの一人が経営している栄のバーLINKS BARでの月1回のミーティングにおじゃまをしてお話をうかがいました。キリスト教のお祈りの後、ナイジェリアの公用語である英語、エド州で使われているエド語、そして日本語が飛びかうながら、真剣にお話をさせていただきました。

取材したときは、ちょうど世界陸上選手権でサニブラウン選手(父:ガーナ人、母:日本人)が100m走や200m走で活躍していました。ユージン ノサさんたちの子や孫の世代には、どんな社会になっているのか思いを馳せながら取材をしました。

団体概要

ベニンブラザーホッド
トーカイ ジャパン

〒474-0071 愛知県大府市梶田町3丁目143-2 県営梶田住宅2-103
TEL : 080-9494-0729 E-MAIL: beninbrotherhoodjp@gmail.com
連絡担当者: エノグエヴァ プリンス・ユージン ノサ